

路地百選推薦書【No. 253】

推薦者氏名：鈴木 隆男

推薦する路地（のまち）の名称	市川市八幡・菅野の路地
所在地	市川市八幡・菅野地区

【推薦する理由（路地のよいところ）】

市川市は、万葉のむかしから現代に至るまで多くの文人墨客に愛され、文化と芸術の土壌が豊かに育まれてきた。幸田露伴、永井荷風、幸田文などの小説家や、随筆家青木玉、永井荷風が一時間借りしたフランス文学者小西茂也が居住した地でもある。永井荷風の作品「断腸亭日乗」、「葛飾土産」や、幸田文の作品「すがの」「菅野の記」「葬送の記」等に当地が登場する。

永井荷風の市川での生活は、麻布市兵衛町の自宅が戦火によって炎上したため、昭和21年1月16日、菅野258番地(現菅野3丁目17番地付近)の借家の一室かりた。荷風は、従兄の杵屋五隻一家とともに暮らすが、長唄の三味線方の五隻と著述業の荷風とは、生業があまりにちがすぎた。隣室から聞こえてくる稽古三味線やラジオの音を避けて、荷風はしばしば近くの白幡神社や、諏訪神社、市川駅の待合室で読書をし時間を費やした。翌年には、執筆のためにしばしば部屋を借りていた同じ菅野に住むフランス文学者の小西茂也の家の一室に間借りの自炊生活をはじめた。しかし、小西夫妻とうまくゆかず、昭和23年12月には立ち退きを迫られ、菅野1,124番地(現東菅野2丁目9番11号)に古家を買ひ、独居生活をはじめた。この家に昭和32年3月まで暮らした。荷風は菅野に約11年間暮らしたことになる。

【写真添付】

		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>上: 荷風ロード 右上: 白幡神社 右下: 菅野1丁目の路地 左上: 白幡神社の裏の路地</p> </div>	

路地	面積	約 かなり広い ha	路地の延長	約 かなり長い m
の 成 立 ち の 特 色 等 概 要		<p>菅野・八幡は市川市北部に位置する。地域の南端に京成本線が通り、西から菅野駅、都営八幡との乗り換えの京成八幡がある。京成八幡から北に向かうと荷風ロードがあり、地域内は市の木である黒松が多く、敷地の広い邸宅も多く残る高級住宅地となっている。</p> <p>地名の由来は、かつてこの地域の北半分が菅（スゲ）が密生する広い湿原、南半分は砂質（砂州）で「スカ」や「スガ」と呼ばれていたことから「菅野」となったという。</p>		

※路地のまちの概要は記入できる範囲で結構です。それぞれの枠の大きさは各自で調整願います。